

○内谷重治市長 まずは議員おっしゃるように、そういうヒアリングフレイル等の講習会等々、しっかりと行って、そして、時期を見て、県内の自治体でも少しずつそういう動きが出てまいりましたので、私どもも検討してまいりたいと思います。

○鈴木富美子議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 先ほど、ちょっとお話ししましたけども、3日ほど前の山形新聞にも、早めにケア、適切にと、加齢による聴覚機能の衰えということで、県内でも高齢者の社会参加促進に向け、学ぶ機会が広がっているということです。ぜひ、長井市でもこのような講習ですか、そういう講演というんですか、こういう取組を進めていただければと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

質問を終わります。

鈴木悟司議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位9番、議席番号5番、鈴木悟司議員。

(5番鈴木悟司議員登壇)

○5番 鈴木悟司議員 清和長井の鈴木悟司です。

一括質問、一括答弁方式で質問させていただきますので、よろしく願いをいたします。

本年は、猛暑が続き、記録的な高温と降水量が極端に少なく、一部地域では水田の水源が断たれ、稲の枯れ症状が見られました。水稻の作況は、収量が平年並みの100と発表されましたが、玄米の格付検査では、猛暑の影響により、腹白や心白粒等の高温障害が多く見られたため、充実度不足により、1等米比率が極端に低い結果となりました。我が家の米についても、充実

度不足、カメムシ被害により、ほとんどが2等米での出荷となってしまいました。

J A山形おきたま稲作振興会だよりの報告ということで、令和5年産米の地区別1等米比率は、長井市は62.6%、J A山形おきたま管内の平均では60.1%になりました。主要品種別だと1等米比率は、はえぬきが44.1%、つや姫が77.8%、雪若丸においては94.5%、コシヒカリは54.3%という結果になりました。このことよって、来年に向けては、異常気象に対する対策が必要だなと感じております。

それでは、早速ですが質問に入らせていただきます。

1番目の長井市食育推進計画について質問します。

国は、平成17年6月に食育基本法を制定し、令和3年3月に、第4次食育推進基本計画を策定し、山形県でも令和3年3月に、第3次山形県食育地産地消推進計画を策定し、食育を推進してきました。

長井市においても、平成26年3月、市民一人一人が心身ともに健康で生き生きとした毎日を送ることができるように「広げよう つなげよう みんなで創る食育の環(わ)」、長井市食育推進計画を策定し、取り組んでこられました。

第2次長井市食育推進計画については、平成31年度より令和5年度まで5年間となっております。今年度が最終年でもあり、今後は第3次長井市食育推進計画の策定に向け、検討をされていると思いますが、第2次長井市食育推進計画の5年間の食における現状と課題についてお伺いします。

特に、食の安全・安心と農産物の地産地消の部分について、生産者と学校給食をつなぐコーディネーターを配置して、計画的な納入を実施されていると思いますが、取組と課題について農林課長にお伺いします。

次の質問ですが、レインボープラン認証米供

給経費負担事業についてでございます。

学校給食の精米の供給は、本来であれば、はえぬきの2等米が標準ではあるわけですが、長井市はレインボープラン認証1等米を使用しております。レインボープラン認証米を使用するための経費と1等米で供給するための差額を長井市で負担していると思っておりますが、毎月の差額と年間の金額についてお伺いします。

それと、JA側にも一部負担があるようですが、この金額は長井地区農政対策協議会が負担していると、JAの方からお伺いしました。長井地区農政対策協議会は、農家自ら、拠出金で成り立っているものですが、この負担額についても、給食共同調理場長にお伺いします。

次の質問の山形県産米の学校給食での使用についてですが、山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部が、2013年度から実施しております、県内一斉「つや姫」学校給食が今年も11月の27日から行われました。

本年度は、県内315校で7万9,000食が提供されるようです。雪若丸についても、1月から2月に実施されるようです。

この事業については、つや姫や雪若丸は1等米が供給されるのでしょうか。2等米との価格差を市町村で負担する必要があるのか、お伺いいたします。

2等米でも、つや姫や雪若丸はおいしいお米であると思っておりますが、山形県産の様々なお米を子供たちに食べてもらい、味の違いを覚えることも食育なのかと思っております。今後も、長井産のつや姫や雪若丸の使用を考えていただきたいのですが、内容市長のお考えをお聞かせください。

次の質問になりますが、食育・地産地消の推進についてでございます。

子供たちが安全で快適に過ごせる学校環境の整備の中で、安全でおいしい給食の提供において、食育・地産地消の推進があります。成果指

標として、学校給食の農産物使用割合が表記されておりますが、資料として頂きました令和2年度から令和4年度の農産物使用割合を見ますと、県内産割合については、令和2年度が41.3%、令和3年度が50%、令和4年度が50.7%と少しずつ伸びております。市内産割合についてですが、令和2年度が27.1%、令和3年度が36.2%、令和4年度については34.4%と、若干は下がりましたが、その年の天候にも影響されますので、少しずつですが、増加させることができているのではないのでしょうか。

生産者の高齢化など、難しい課題もあると思っておりますが、現状より徐々に増加を目標にさせていただくことで、生産者の意欲を持たせる施策にしていきたいと考えますが、給食共同調理場長にお伺いいたします。

もう一つの質問でございますが、次世代を担う青少年の健全育成の具体的な取組ですが、青少年の社会参加の推進として、ジュニアリーダー育成事業の取組を上げていただいております。長井市のジュニアリーダー育成につきましては、山形県子供会育成連合会と長井市子供会育成会連絡協議会が連携して活動しております。

本年の活動については、7月の山形ジュニアリーダーサマーキャンプには、高校生から小学生まで、長井市から15名が参加しております。8月には、福島で開催された東北地区ジュニアリーダー大会にも、5名が参加して、東北地区のジュニアリーダーと交流しております。10月にも、長井市子連が主催して、国立磐梯青少年交流の家に10名のジュニアリーダーたちと、自然と歴史の冒険体験を行ってまいりました。そして、これからの活動として、高校生たちが主体となって、ジュニアリーダー組織を立ち上げることになりました。高校生たちは、これから中学校にもPRしてメンバーを募集していき、地域に密着した活動をしていきたいと考えております。

今後、取り組まれるスクール・コミュニティは、学校だけでなく地域のこれからの在り方につながる取組であることから、ジュニアリーダーたちも関わってほしいと考えております。

このことに関して、教育長のお考えをお聞かせください。

以上で壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木悟司議員から、3項目にわたってご質問、ご提言をいただきました。

私からは、最初の長井市食育推進計画についての(2)レインボープラン認証米供給経費負担事業についての②についてお答えを申し上げます。

山形県産米の学校給食への使用についてということで、ご質問がございました。

学校給食で提供しているお米については、鈴木悟司議員おっしゃるとおり、地元産のレインボープラン認証はえぬき1等米を使用しております。そのほか、長井地区農政対策協議会様からは、地元産のつや姫や雪若丸をご提供いただき、学校給食で使用させていただいており、おいしいご飯を食べられることは大変ありがたいということで、感謝しているところでございます。

山形県が実施しております、つや姫、雪若丸の提供についての市町村負担はございません。

このように、学校給食につや姫や雪若丸などを使用する際は、特別メニューとなるため、調理場だより「虹のかけはし」において、生産者の声や提供いただいた経過などを盛り込んで、児童生徒、そして、保護者にお知らせするための食育の推進にも取り組んでおります。

地元産のお米はもちろんでございますが、県産米の使用についても、パンやカレーの材料として米粉を使用するなど、積極的に取り組んで

おります。そのほかの食材についても、地元食材を数多く使用して、引き続き地産地消を推進しながら、質の高い、安全・安心でおいしい給食の提供を進めてまいります。

去る11月の13日月曜日でございますけれども、長井南中学校において、中学3年生を対象としたバイキング給食が実施されました。これ、実に3年ぶりということで、大変生徒たちも期待して喜んで、当日迎えたようでございますが、それに私も本当に久しぶりにご招待いただきまして、生徒と一緒に給食を楽しんでまいりました。

その中で、校長先生や学校栄養士から、食に関するお話や、そして生徒からの、生産者の方や学校給食に関係する方などへの感謝の言葉が発表されました。学校給食は、子供たちの健全な育成に寄与するだけではなく、食に興味や関心を持ち、食を育む環境を知るなどの重要な取組であると、改めて感じたところです。

一方で、食育全般において、学校給食にて取り組むことができることに限りがあるために、家庭や地域、生産者を含めた関係者が共に取り組むことが重要と考えますので、長井市食育推進計画において、しっかりと取り組んで、次につないでいければと考えております。

鈴木悟司議員には、引き続き生産者の視点からご意見、ご提言などを頂戴できればありがたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、3番目、青少年の社会参加の推進についてということで、スクール・コミュニティを視野に入れた、具体的には子供会活動の推進についてのご質問にお答えいたします。

5月の27日の土曜日、長井市で開催された県の子供会育成会連合会総会、ここに私もお招きいただきました。びっくりしたのは、集まった

皆さんの非常に熱い思いと、それから、強い連帯というか、強いつながりを感じたところです。

このような方々の、特に長井市の方々の思いと、そして、ご指導のあかしだと思っておりますけれども、長井おどりパレード、ここで多くの子供会の参加がありました。いいなと思ったのは、平野地区もそうですね、中学生の参加が多かったんですが、致芳もそうだったでしょうか、力になるなということと、子供たちの姿が大人の心を明るくして、元気にしてくれる、そういう力を持っているのが子供会の育成会なんだなということを、改めて感じたところです。

外郭団体である長井市子ども会育成会連絡協議会、子育連と言わせていただきます、においても多くの事業を実施していただいておりますし、そのことによって、子供たちの健全育成に本当にお力添えいただいておりますこと、改めて感謝を申し上げます。

最近では、地区を越えた子供たちの交流と健康で明るくたくましい青少年の健全育成を趣旨として、ドッジボール大会が開催され、当日123名の小学生と中学生が参加して、ジュニアリーダーによる運営への協力もあって、盛会であったとお聞きしております。

子育連の役員の皆様も、危機予知トレーニング指導ですとか、競技の審判等で子供たちと積極的に関わっていただき、大人と子供との楽しい交流の場になった、こんないい事実も聞かれています。

コロナ禍において、それまで培われてきた地域内での様々な交流が減っていましたが、現在は、子育連の事業等、様々な活動が再開されております。主体的に関わる皆様に、本当に改めて感謝を申し上げたいと思います。

議員ご案内のスクール・コミュニティについては、学校を核とし、多様な地域の団体や個人が、子供たちの学びに直接関わることで、その豊かな成長を支えるのみならず、大人自らも、

そして、地域も学び、成長する、学校や子供を縁としたつながりを指すものであります。

先進地に三鷹市がありますが、ここでは、小学校の家庭科教室を子供食堂として活用して、子供たちに朝食を提供する、このような実践をしております。

長井市でも、学童クラブを小学校内に移転したり、子供会の肝試し大会を夜の学校内で開催する、致芳地区です、などの取組の事例がありますが、今後は学校の特別教室等、これらを積極的に開放し、地域のスポーツ団体や文化団体等が様々な活動の場として利用することで、諸活動の支援につながったり、様々な子供の居場所になると考えております。

子育連のジュニアリーダーについては、現在、小学生が18名、中学生が10名、高校生が5名の計33名が活動しており、例年、学年が上がっても、継続的にまた、意欲を持って参加して下さっている方が多いとお聞きしております。ぜひ、現在の活動を継続していただき、スクール・コミュニティとしても、双方向により影響となるような関わりにつながることを、これをご期待申し上げているところであります。

同時に、活動体験の促進や学校と地域の交流機会の創出という点においては、子育連は、その核を担える団体だと思っております。各地区の子育連役員の皆様を中心に、多くの大人たちが、子供たちと直接関わり、ジュニアリーダーや事業に参加する小・中学生や高校生の青少年が健全に楽しく活動し、地域を支える、そんな若者になってほしいと改めて思っているところです。今後とも、ご尽力のほどよろしくお願い申し上げます。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 私からは、1番の長井市食育推進計画について、(1)長井市食育推進の現状と課題について、①安全・安心と地産地消の推進についてお答えさせていただきます。

現在、第3次長井市食育推進計画の策定に向け、12名の委員を委嘱し、検討を行っているところでございます。

現行の第2次長井市食育推進計画では、第1次計画から継続して、4つの基本目標として、目標1、食を楽しむ、食への関心の心を育てる、目標2、食による健康な体づくり、目標3、食の安全・安心と地産地消の推進、目標4、食文化の継承を設定し、取り組んでまいりました。

計画期間の5年間の課題は、高齢化及び核家族化の進行、価値観やライフスタイルの多様化により、家族や誰かと一緒に食事する時間が取れない人や朝食を取らない人の増加、伝統的な食文化の継承が困難になっていることなどが課題として上げられております。

65歳以上の単身世帯も増加しており、高齢者の低栄養や孤食といった課題への対応も求められます。

また、この5年間の間には、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の拡大があり、食に関する事業やイベント等は縮小や中止を余儀なくされた時期もありました。黙食が推奨され、調理実習の場が減るなど、誰かと食を楽しむ共食の場や経験が減ってしまったことは、食育推進に関しても大きな影響を受けたと考えております。

鈴木議員からご質問ありました、食の安全・安心と農産物の地産地消につきましては、生産者と学校給食をつなぐコーディネーターとなる、会計年度任用職員を平成26年度から菜なポートに配置し、生産者との連携により、学校給食及び幼児給食における地場産食材の供給促進を図るための体制を整備してまいりました。

具体的には、調理場からの発注に合わせて、出荷可能な生産者との調整と食材の納入を行っております。課題としては、発注量が多いため、提供できる生産者が限定されていることや農業者自体が減ってしまっていること、1カ月前の

発注になるため、天候などの影響により、注文分を確保できないことがあることなどがあります。

生産者の方としては、子供たちの給食へ提供したいという気持ちはあるのですが、引き受けた以上はキャンセルは出したくないという気持ちもあり、簡単には提供に踏み切れない現状もあるようです。農林課としても、地産地消を推進するため、より多くの生産者の皆さんに、給食へ農産物を提供していただけるよう、仕組みの見直し等を検討してまいりたいと考えております。

○鈴木富美子議長 高世 潤給食共同調理場長。

○高世 潤教育給食共同調理場長 私からは、レインボープラン認証米供給経費負担事業のレインボープラン認証1等米の使用についてお答えいたします。

山形県学校給食会で取り扱う学校給食米にしましては、県産はえぬき2等米が標準でございましたが、令和元年11月から、県産はえぬき1等米が標準となっております。

現在、長井市の学校給食で使用するお米は、全てレインボープラン認証はえぬき1等米を使用しております。

これらを踏まえまして、令和5年度米飯助成事業取扱要綱に基づきまして、米飯給食において、はえぬき1等米を使用する際の等級格差に要する経費の負担ですが、10キロ当たり125円プラス消費税の積算となり、令和5年度当初予算で42万6,000円を計上しております。

また、あわせて、レインボープラン認証米使用に要する負担経費ですが、10キロ当たり166円プラス消費税の積算となり、令和5年度当初予算で56万5,000円を計上しております。

続いて、JA山形おきたまによる等級格差に要する経費負担につきましては、10キロ当たり41円プラス消費税の積算となっておりますが、総額の情報は持ち合わせておりません。

続きまして、2番、食育・地産地消の推進についての中、学校給食の農産物使用割合についてお答えいたします。

学校給食を提供する際、栄養教諭や各学校の給食主任などによる献立づくりの会議が毎月開催され、そこでメニューが決定となります。献立づくりは、児童生徒に必要な1日のビタミンや脂質などの栄養摂取量を考慮しながら、その時期に収穫される地元食材などの季節を感じられるメニュー、かつ安心しておいしく食べることができる給食の献立づくりを行っております。

地元食材の使用状況につきましては、令和4年度の実績となりますが、鈴木悟司議員おっしゃるとおり、米飯の場合、レインボープラン認証はえぬき1等米を中心に、ほぼ100%、長井産を使用しております。野菜や肉などの農産物の場合は、地元産を含め県内産が50.7%、レインボープラン認証を含め地元産が34.4%、レインボープラン認証食材は27.8%という状況となっております。

学校給食における地元産食材の使用につきましては、本年9月の定例会におきまして、竹田陽一議員の一般質問においてお答えさせていただいており、重複となりますが、食材によって生産者や事業者等が限定されること、特に生鮮野菜は使用する食材の収穫時期や生産量などの気象条件に左右されるため、食材を調達する難しさが課題と考えております。

学校給食を提供する側としまして、可能な限り、地元食材を使用した提供を考えておりますが、対応できることに限りがございますので、先ほど市長答弁でありました、長井市食育推進計画の取組の中で、農林課等、関係課との調整になりますが、生産者や事業者等の関係する皆様を含めて、様々な方々からご協力をいただきながら、これからもより多くの地元食材を取り入れた献立の工夫と栄養バランスの取れた安心・安全でおいしい給食の提供に努めてまいり

ますので、ご理解とご協力のほどをよろしくお願いたします。

○鈴木富美子議長 5番、鈴木悟司議員。

○5番 鈴木悟司議員 市長をはじめご答弁ありがとうございました。

質問事項を提出してから、ちょっといろんなことが給食の中で、本市ではなかったわけですが、起きていて、東根市での学校給食の提供の中で、つや姫給食が実際食べたのははえぬき給食だったということが報道されました。そういったことが起きるのかなと思ってしまったんですけども、委託業者に委託をしているということで、そういったことが起きたということでしたけども、長井市の場合、もう今は全部、給食共同調理場で米も提供しているということで、そういったことは起きないのかなとは思っておりますが、じゃあ、炊飯されたお米がはえぬきなのか、つや姫なのかなんていうのは、本当に分からないことでして、これがつや姫ですよ、はえぬきですよと言われれば分かることなんですけども、なかなかそれは恐らく私たちでも判断できないという状況なのかなというように思います。

そういったことがちょっと起きたということもあって、あと、その起きたことが報道されて、報道された映像がいまだにユーチューブに残っているということが、ちょっとインシデント的なことでまずいのかなというところも感じたところでした。今日も確認したんですけども、まだユーチューブに某テレビ局の映像は載ったまま、映像に載った子供たちに影響がなければいいなというようには思っているところがございます。

そんなこともあったので、給食の、本当はほとんど給食につや姫、雪若丸というものを使ってほしいなというように思っています。なかなかレインボープランの1等米というところにこだわって使っているというところはしょう

がないのかなというようには思っているんですけども、今はつや姫のほうがおいしいですし、食べてみれば、ぜひ、そういった部分でこの月はつや姫にしましょうとか、そんな感じでできないものなのかなと思っはいるんですけども、給食共同調理場長、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○鈴木富美子議長 高世 潤給食共同調理場長。

○高世 潤教育給食共同調理場長 はえぬきとつや姫、雪若丸の、購入の単価がそれぞれ違ひまして、私どもの今の経費からいきますと、レインボープランの認証はえぬき1等米が、今のところ、標準となっております。

ただ、つや姫、雪若丸は販売価格が高うございますので、その辺の食材費の関係からも調整が必要となりますが、なお、検討をしてみたいと思います。

○鈴木富美子議長 5番、鈴木悟司議員。

○5番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。ぜひ、たくさんをつや姫、雪若丸を使えるようになっていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

本当ですと、ほかのことも通告したかったんですけども、雪若丸の生産量もそうなんですけども、後からどんどんどんどん出てきたもので、その辺はまた別にさせていただきたいと思ひます。

青少年の社会参加の推進という部分で、教育長から本当にいろいろご指導いただきました。ありがとうございます。実は、長井市からも子供会には活動助成金ということで、補助をいただきながら活動をしているわけなんですけども、ただ、本当に子供たちにいろんな活動をさせるには、お金がかかるということで、ここ5年ぐらい、ずっと子どもゆめ基金という助成金のほうに応募をしております。ほぼ毎年、通過させてもらって、子供たちにいろんな体験ということで、今年は磐梯青少年交流の家、去年は遊佐の

海浜自然の家、その前は神室少年自然の家といった感じで行っております。神室のときなんかは、大型バス満車で子供たちを連れていきました。コロナ禍のときにいいのかと言われながらやっておりますが、本当に子供たちはコロナ禍で何もできないときに行けたということで、すごく喜んでおりました。

こういった活動をするのにも、大型バスなり、いろんな経費を子供たちに負担をさせないで連れていくというのは、非常に大変なことで、何とか何とか、今までもこうやってやってきたけども、これから本当に今年、高校生たちが、その子供たちはずっとこの活動を続けてきたくれた子供たちですけども、自分たちでサークルを立ち上げるということで、名前までもうほぼ決まった状態で、来年度から活動をしていくということでございます。それを継続していくというのが難しいというところがありますので、私たち大人が、そこを指導しながら、指導員として持っていきたいなというようには考えておりますので、各地域のコミュニティ・スクール等から、子供会活動も一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

実は、山形県の青少年地域活動団体一覧というのがございます。そこには、長井市のサークル名、長井組というのが残ってます。平成14年9月設立というので、そのまま県の資料に残ってて、現在は長井市子ども会連絡協議会のリーダー育成事業として活動しているというようにはなっているんですけども、これがずっと残ってるんですね。実際、長井組はとっくにありません。もう十数年前にないというのが現実ですので、これを市側から情報を送ってるのか、県が勝手にそういうふうに乗って書いているのかは、私も分からないんですけども、ちょっと事務方にも何回か言ったことはあるんですけども、ないものをあると書かれていると、非常に困る

などというところはありますので、せっかく来年、新しいサークルを立ち上げるといこともございますので、ちょっとその辺、1回、県のほうにも言っていて、どちらがちょっとあれなのか分からないですけども、ご指導をお願いをしたいと思っております。

回答は別に要らないので、こちらからのあくまでもお願いということで、いろいろしゃべりましたが、私もずっともう子供がいない中で、市の会長なり、今、県の役員なりって、10年ぐらいそのまま辞めずにやっていますので、各地域の皆様にもご協力をお願いしながら、質問を閉じたいと思います。よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。再開は2時40分といたします。

午後 2時20分 休憩

午後 2時40分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

鈴木 裕議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位10番、議席番号4番、鈴木 裕議員。

(4番鈴木 裕議員登壇)

○4番 鈴木 裕議員 皆さん、お疲れさまです。一般質問の2日目の本日5番目、清和長井の鈴木 裕でございます。一括質問、一括答弁方式で質問をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

この秋は、新型コロナウイルス感染症5類移

行となったためか、経済活動が活発化し、コロナ禍以前のように、いろんな地域や団体で行事や飲食を伴うイベント、会議などが多々増えてきたのを実感しています。議会においても、総務常任委員会及び文教常任委員会では、4年ぶりに行政視察を行うことができましたし、議員と市民との意見交換会も4年ぶりに開催できました。11月8日から11月20日にかけて、議員を3班に分け、市内6地区の住民の方と話し合ったわけですが、提言や要望、市政に対する熱い思いやご意見なども頂戴し、出席された方々の市政への関心度を感じ取ったところです。

また、これもコロナ禍で実施できなくて、4年ぶりでありましたが、10月22日、長井市消防団第1分団秋季消防演習が実施され、観閲させていただきました。久々の演習ということもあり、一糸乱れぬとはいきませんでした。が、団員全員が真剣に取り組まれており、市民の生命と財産を守るために、日々、努力されている姿に敬意と感謝の念を抱いたところです。

その日は、慰労会もあり、副団長や分団長、そして、幹部の方とも意見交換することができ、団運営の課題や悩みもお聞きすることができました。

厚生常任委員長として、市内5か所の児童センターでつくる、長井市父母の会連絡協議会研修会並びに情報交換会にお招きいただき、父母の会、皆さんの活動状況、各センターから市への要望などを伺うことができ、施設や運営面の課題について理解を深めたところです。今回は、懇親会が再開され、役員の皆さんと交流する中で、父母の会としてのご苦労ぶりも感じ取ったところです。

さて、本日の質問ですが、今述べた事業や行事に出席してみて、対応が必要でないかと思ったことの中から、3つの課題について質問いたします。

1つ目は、伊佐沢児童センターの立地場所に